

不思議なこと その2

野口幹夫

長年それと付き合いながら、ずっと不思議なことと思いつけているものがあります。それは人間の体をめぐるといわれる「気」です。

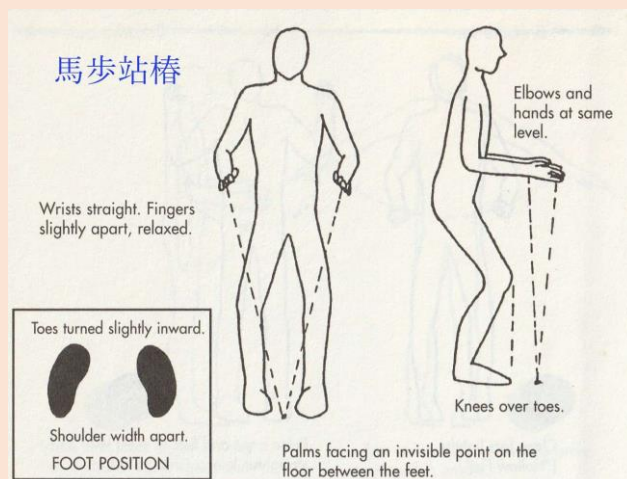
私は毎朝、海岸でのラジオ体操に参加する途中の公園で簡単な気功をします。

日本の西野流気功と、中国の空勁気功の功法です。それぞれ名前があり、西

野流は足芯呼吸と華輪。

中国式は起勢と**ばほたんとう**馬歩站樁で、計

約5分間です。



この寄稿をするために忘れて

いる古い記録を紐解きました。中国の空勁気功に出会ったのは20年前のこと

とでした。まだ会社勤めではありましたが、時間の余裕ができた監査役時代

でした。通勤の乗換駅の巣鴨駅の近くにその教室はありました。帰宅の途中

の夕刻、ふらりとその教室を訪ねました。先生は今村末子さんとおっしゃる同年配で、我が友伊藤や村尾と同じ満州帰りの方だったので、一挙にうちとけました。そこから毎週通い毎日公園で復習練習をする日々が始まりました。

一度伊藤君を誘って先生と満州のことを話し合っていたこともあります。1

年で初級、5年かけて中級の16功法を修了。最後は今村先生に連れられて上海にあるこの流派の本拠地の気功教室の大会にまで参加しました。妻も一緒に参加し、開発者の黄仁忠先生から気功による「気」の放出治療をしていただきました。



もう一つの西野流気功は、すでに中国気功の基礎がありましたので、先輩からの又伝えでも簡単に実行できました。また由美かおるが実演するユーチューブの動画でも確かめることができました。

この長い練習経験で私は、気功法を実行したときに、「気」らしきものを、手のひらに感じることはできています。毎朝その「気」を活発に起こし、一日を始めることが、今の私の健康を支えてくれているのかもしれませんが。

私の「気」の体験は、このようなささやかな現象ですが、武術としての少林寺拳法の「気」は 人を撥ね飛ばす勢いがあるようです。

そのようなはげしい「気」の発露であれば、何かの物理計測でも確認できそうなので、その正



体を発見しようとする実験が数多くなされ報告されています。その研究者桜美林大学教授の湯浅泰雄氏はその著「気とは何か ― 人体が発するエネルギー」の中で、様々な研究を総括してこう述べています。

『「気」というエネルギーの作用は、心理―生理―物理という3つのレベルに変換する。生命体に特有の**未知**のエネルギーである。』

皆さんもご承知のことですが、東洋医学では人間の体には目に見えない^{けいらく}経絡が各臓器と結びついて張り巡らされており、そのところどころに皮膚に開け

た穴「ツボ」があるとしています。そしてその経絡に沿って「気」が流れるとされます。経絡のツボも特定されており、鍼治療はそのツボに針を刺して刺激を与え、「気」の巡りを良くし、体の不調を改善するのだそうです。気功もそれらに関係しつつ工夫されているようです。



「気」が未知のエネルギーとすれば、想像されるのはダークエネルギーです。人間の「精神」や「記憶の貯蔵庫」も科学では発見されず、未知のダークマター・ダークエネルギーで形成されていると想像されます。「精神」や「長期記憶」の器官の存在は、科学で発見されなくともその存在は疑えません。

「気」はだれでも知っている存在とは言えないのですが、長い歴史の中でたくさんの人々に親しまれていることは確かです。それがもしダークエネルギーで成り立っているとすれば、それは宇宙につながるような途轍もないものと、人間はふれ合ってきたことになります。私も不思議でわからないままに、これからも末永く付き合っていきたいと思っています。